



A. 患者の皆様へ

免疫チェックポイント阻害薬は、さまざまな免疫細胞の働きを抑制する「免疫チェックポイント」を阻害することで、がん細胞に対する免疫を活性化・持続させる薬剤です。免疫チェックポイント阻害薬が原因で起こりうる副作用に、「免疫関連有害事象」と呼ばれるものがあります。ここでご紹介する免疫関連有害事象は、皆様に必ず起こるというものではありません。しかしながら、気づかず放置していると重くなり健康への影響が起こりうるため、早めに対処することが大切です。本マニュアルを参考に、患者さんご本人、またはご家族に免疫関連有害事象の初期症状について知っていただき、もしも気づく点があれば担当の医師あるいは薬剤師に連絡してください。

免疫関連有害事象の代表的なものとその症状を表1に示しています。免疫チェックポイント阻害薬の治療中にこのような症状がみられた場合には、放置せず、ただちに医師・薬剤師に連絡してください。

表 1. 代表的な免疫関連有害事象と体に現れる症状

疾患領域	有害事象の種類	体に現れる症状
皮膚	皮膚障害	皮膚が赤くなる、かゆみ、水ぶくれ、くちびるなどのただれ、くちびるや目が赤くなる、めやに（眼分泌物）
肝臓	肝疾患 （肝機能障害、肝炎）	だるい、元気が出ない
腎臓	腎機能障害	尿が少ない、だるい
血液	血液障害 （血小板減少性紫斑病、貧血、無顆粒球症など）	青あざができる、鼻血が出やすい、顔色が悪い、体がだるい、息切れがする
呼吸器	呼吸器疾患 （間質性肺炎）	息苦しさ、咳、発熱
消化器	消化器疾患 （大腸炎）	下痢、血便、吐き気、おう吐
消化器	膵炎	発熱、腹痛

神経・ 筋骨格系	筋肉疾患 (筋炎、重症筋無力症、横 紋筋融解症)	力が入りにくい、息がしづらい、筋肉が痛む
	神経障害 (ギランバレー症候群等)	手足のしびれ、力が入りにくい
	脳炎、髄膜炎	発熱、ぼーっとする、頭痛、意識が薄れる
代謝・ 内分泌	1型糖尿病	のどが渇く、水を多く飲む、尿が多い、だるい
	甲状腺機能障害 (亢進症、低下症)	だるい、食欲がない、吐き気、動悸、むくみ、 うとうとする
	下垂体機能障害	だるい、食欲がない、吐き気、うとうとする
	副腎皮質機能障害	だるい、食欲がない、吐き気、うとうとする

※ 医薬品の販売名、添付文書の内容等を知りたい時は、独立行政法人医薬品医療機器総合機構の医薬品医療機器情報提供ホームページの、「添付文書情報」から検索することができます (<http://www.info.pmda.go.jp/>)。

また、薬の副作用により被害を受けた方への救済制度については、独立行政法人医薬品医療機器総合機構のホームページの「健康被害救済制度」に掲載されています (<http://www.pmda.go.jp/index.html>)。